

HTML 出力設定

1. HTML 出力	3
1-1. Screen ランタイム概要	3
2. 連続出力モード	4
2-1. 概要	4
2-2. 設定方法	4
2-3. 出力物	4
3. 単一出力モード	5
3-1. 概要	5
3-2. 設定方法	5
3-3. 出力物	5
3-4. 注意事項	6
4. ツールバー表示モード	7
4-1. 概要	7
4-2. 共通動作	7
4-3. 注意事項	7
5. スマートデバイス対応	8
5-1. 概要	8
5-2. 共通動作	8
5-3. 単一出力モード独自の動作	8
6. 単一出力モード Web サーバー	9
6-1. 概要	9
6-2. 設定値	9
6-2-1. 標準設定	9
6-2-3. 設定値変更	9
6-3. Web サーバー起動 / 終了のタイミング	10
6-3-1. Web サーバー起動	10
6-3-2. Web サーバー終了	10
7. Screen 出力ファイル閲覧	11
7-1. 概要	11
7-2. 実行手順	11
8. 部分出力	12
8-1. 概要	12
8-2. 部分出力の種類	12
8-3. 設定方法	13
9. URL 設定	14
9-1. 概要	14
9-2. 設定方法	15
9-2-1. 実行オプションによる設定	15
9-2-2. screen.properties ファイルによる設定	15
9-2-3. 環境設定による設定	15

9-2-4. 設定の優先順位	16
9-3. 注意事項.....	16
10. screen.properties ファイル	18
10-1. 概要.....	18
10-2. 設定値	18
10-2-1. ファイル形式	18
10-2-2. 設定項目	18
10-3. 注意事項.....	18
11. その他の設定	19
11-1. HTML タイトル.....	19
11-1-1. 設定方法	19

1. HTML 出力

1-1. Screen ランタイム概要

Screen ランタイムは、HTML5 形式の帳票を出力することができるランタイムです。

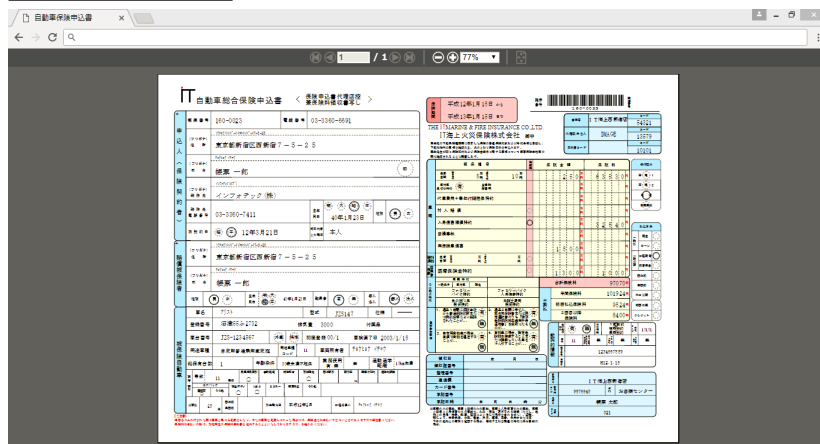
帳票データは HTML ファイル内に記述されたインライン SVG により表現されます。

出力された HTML 帳票は HTML5 対応ブラウザで閲覧することができます。

このとき、用紙の見た目も出力されるため、紙の帳票と同じような感覚で帳票を閲覧することができます。

Screen ランタイムでは、複数ページを連続で表示する「連続出力モード」と、ページ毎に表示する「単一出力モード」の出力方法があります。また、「連続出力モード」では出力時の設定により「ツールバー」の表示 / 非表示を選択することができます。

図：出力した HTML 帳票



2. 連続出力モード

2-1. 概要

連続出力モードで Screen ランタイムを実行すると、複数ページを出力した場合に 2 ページ目以降は下に連続して出力されます。閲覧者はブラウザの画面をスクロールすることで複数ページの帳票を閲覧することができます。

2-2. 設定方法

連続出力モードで Screen ランタイムを実行するためには、実行ダイアログの [Screen 設定] タブの「ページ出力モード設定」で「連続出力」を選択して実行します。

※実行コマンドラインでオプションを指定せずに実行すると連続出力モードで実行されます。

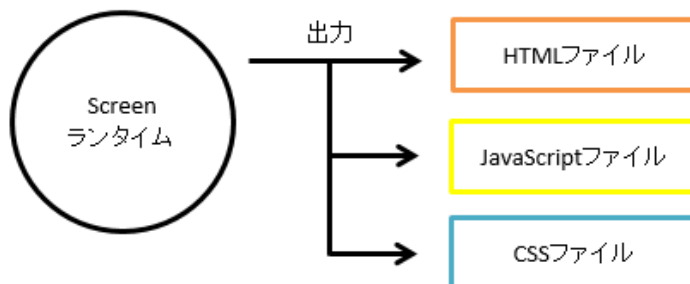
2-3. 出力物

連続出力モードで Screen ランタイムを実行すると HTML ファイルと同名の JavaScript ファイル (.js) と CSS ファイル (.css) が同じ階層に出力されます。

(例) 出力ファイルに「exdir/file.html」を指定した場合、以下の 3 ファイルが出力されます。

- exdir/file.html
- exdir/file.js
- exdir/file.css

図：連続出力モード出力イメージ



<< 注意 >>

JavaScript ファイルおよび CSS ファイルは HTML ファイルと同様に上書きモードで出力されます。また、これらのファイルに書き込み権限がない場合はエラーと判定され、HTML ファイルは出力されません。

3. 単一出力モード

3-1. 概要

単一出力モードで Screen 実行すると、複数ページを出力した場合にページ単位で画面が切り替わって表示されます。

ページ数が多くページの読み込みが遅い、閲覧環境のマシンスペックが低いために動作が遅くなる、などの課題があるときに有効です。

<< 注意 >>

単一出力モードで出力した帳票は Web サーバー経由でのみ閲覧することが可能です。

3-2. 設定方法

単一出力モードで Screen ランタイムを実行するためには、実行ダイアログの [Screen 設定] タブの「ページ出力モード設定」で「単一出力」を選択して実行します。または、実行コマンドラインに“-ts” オプションをつけてランタイムを実行します。

3-3. 出力物

単一出力モードで Screen ランタイムを実行すると HTML ファイルと同じ階層に、JavaScript ファイル (.js) と CSS ファイル (.css) とページ毎の SVG ファイル (.svg) が格納された outfiles フォルダが出力されます。

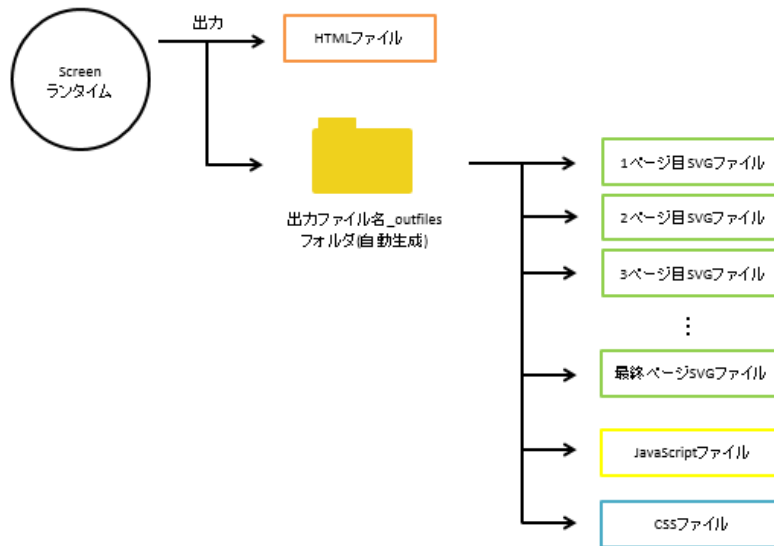
(例) 出力ファイルに「file.html」を指定し、2 ページの帳票をプレビュー実行した場合、以下のフォルダー、ファイルが出力されます。

- ・帳票資源フォルダー /sc_output/file.html
- ・帳票資源フォルダー /sc_output/file_outfiles
- ・帳票資源フォルダー /sc_output/file_outfiles/yyyyMMddHHmmss.js
- ・帳票資源フォルダー /sc_output/file_outfiles/yyyyMMddHHmmss.css
- ・帳票資源フォルダー /sc_output/file_outfiles/p1_yyyyMMddHHmmss.svg
- ・帳票資源フォルダー /sc_output/file_outfiles/p2_yyyyMMddHHmmss.svg

※帳票資源フォルダーはマネージャーのメニュー [ヘルプ]-[バージョン情報]-[バージョン情報詳細] で確認できます。

※「-o」オプションにフルパスを指定してテスト実行を行うと、指定されたパスに html ファイルと outfiles フォルダが同階層で出力されます。

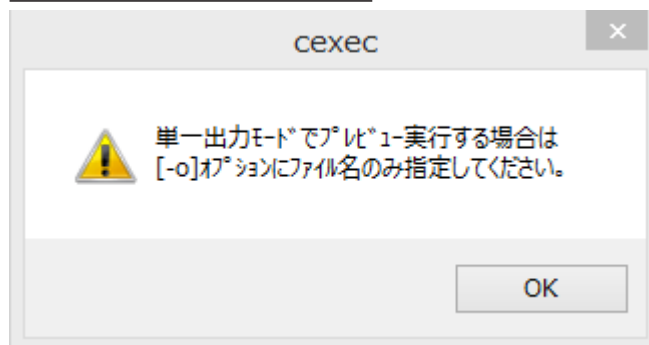
図：単一出力モード出力イメージ



3-4. 注意事項

- ・入力フォームオブジェクトが配置された帳票は単一出力モードでの実行を行うことができません。
- ・出力ファイルの構成を変更すると正しく閲覧することができません。
- ・単一出力モードでのプレビュー実行時は、出力ファイルにフルパスを指定することができません。出力ファイルにフルパスを指定すると、以下の警告が表示されます。

図：単一出力プレビュー実行時の警告



4. ツールバー表示モード

4-1. 概要

実行オプションでツールバー表示の設定を行った HTML ファイルをブラウザで閲覧すると、表示画面の上部にページ表示の操作を行うツールバーが出力されます。コマンドラインオプションでは「-th」オプションを指定することにより、ツールバー出力モードが有効になります。連続出力モードではツールバーの表示 / 非表示を変更することができますが、単一出力モードではツールバー出力が必須となります。

4-2. 共通動作

図：出力ツールバー



連続出力モード、単一出力モードで共通の動作を行うツールバーのボタンを以下に説明します。

- ① 「1 ページ目へ」 ボタン
1 ページ目へ遷移します。
- ② 「前ページへ」 ボタン
1 ページ前のページへ遷移します。
- ③ 「ページジャンプ」 テキストボックス
入力した番号のページへ遷移します。
- ④ 「次ページへ」 ボタン
1 ページ次のページへ遷移します。
- ⑤ 「最終ページへ」 ボタン
出力されたページの最終ページへ遷移します。
- ⑥ 「ズームアウト」 ボタン
縮小表示を行います。
- ⑦ 「ズームイン」 ボタン
拡大表示を行います。
- ⑧ 「拡大率」 変更選択ボックス
選択した拡大率で表示を行います。
- ⑨ 「ページ全体表示」 ボタン
ブラウザのサイズに合わせて拡大率を変更します。

4-3. 注意事項

- ・ ツールバー表示モードと部分出力設定は併用できません。
- ・ ブラウザーの拡大 / 縮小を行うと、ツールバーも併せて拡大 / 縮小して表示されます。

5. スマートデバイス対応

5-1. 概要

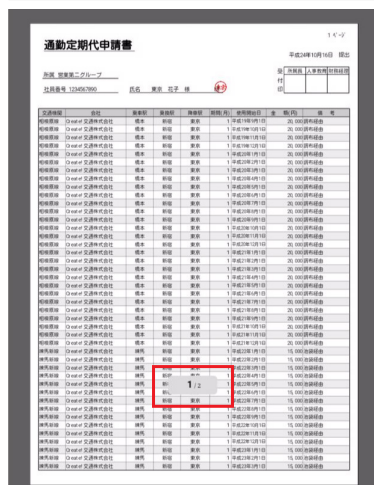
ツールバー表示モードで Screen 実行すると、iPhone/iPad/Android などのスマートデバイスで表示した際に、ツールバーの代わりとなる機能が実装されます。
連続出力ツールバー表示モード、単一出力モードで共通の動作を行うものと、単一出力モード独自の動作を行うものがあります。

5-2. 共通動作

以下の動作が連続出力ツールバー表示モード、単一出力モード共通の動作となります。

- ① 2本の指を画面上にのせてその間隔を広げる、または縮める（ピンチアウト、ピンチイン）ことで拡大、縮小を行うことができます。
- ② 画面を軽くたたき操作を2回繰り返す（ダブルタップ）ことで、ページ全体を表示することができます。
- ③ 画面中央下部にページジャンプエリアが表示され、数値入力によるページ遷移ができます。
- ④ 操作を行わないとページジャンプエリアが非表示となります。
- ⑤ 拡大を行うとページジャンプエリアが非表示となります。

図：スマートデバイスで表示でのページジャンプエリア



5-3. 単一出力モード独自の動作

左右へスワイプするとページ遷移が行われます。

6. 単一出力モード Web サーバー

6-1. 概要

マネージャーによる単一出力モードのプレビュー実行時、プレビュー実行を行う環境の Web サーバーを起動し、Web サーバー上で出力ファイルを閲覧します。

6-2. 設定値

Web サーバーを起動する際のポート番号は以下のように設定、変更されます。

6-2-1. 標準設定

Web サーバーのポート番号はデフォルト値「65500」を利用します。

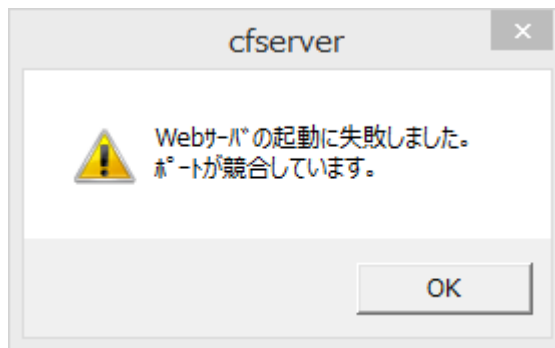
(例) 出力ファイルに「file.html」を指定し、単一出力モードで Screen プレビュー実行した場合、以下のアドレスにアクセスを行うことでファイルを閲覧することができます。

「http://localhost (またはマシンの IP アドレス) :65500/file.html」

6-2-3. 設定値変更

ポート番号が既に他のアプリケーションなどにより使用されている場合、以下のようなポート番号競合エラーが発生します。

図：ポート番号競合エラー



この場合マネージャーの環境設定からポート番号の変更を行うことにより、ポート番号競合を回避することができます。

環境設定によるポート番号変更は、マネージャーの[メニュー]-[環境設定]で表示される[環境設定]ダイアログの[Screen 設定]タブから設定することができます。

図：[環境設定] ダイアログ [Screen 設定] タブ

The screenshot shows the 'Environment Settings' dialog box with the 'Screen Settings' tab selected. The 'Single Output Port Setting' section is highlighted with a red box. It contains a label 'ポート番号:' followed by a text input field containing the value '65500'. Other sections visible include '各種URL' (Various URLs) with fields for Font, Image, JavaScript, and CSS, and '入力フォーム' (Input Form) with a '送信文字コード' (Send Character Code) dropdown set to 'UTF-8'.

ポート番号を変更して [OK] ボタンをクリックすると、変更前のポート番号で起動していた Web サーバーが終了します。

6-3. Web サーバー起動 / 終了のタイミング

Web サーバーが起動する / 終了するタイミングは、それぞれ 2 通りの方法があります。

6-3-1. Web サーバー起動

Web サーバーを起動するためには以下の 2 通りの方法があります。

- ①実行ランタイム「Screen」でページモード「単一出力」を選択した状態で、プレビューボタンをクリックしたとき。
- ②マネージャー [Screen 出力ファイル閲覧] で HTML ファイルを選択して [開く] ボタンをクリックしたとき。

6-3-2. Web サーバー終了

Web サーバーを終了するためには以下の 2 通りの方法があります。

- ①マネージャーが終了したとき。
- ②マネージャーの環境設定でポート番号を変更したとき。

<< 注意 >>

Web サーバーを終了させると他の Web サーバーに移動させるか、または再度 Web サーバーを起動させない限り単一出力モードでテスト実行したファイルを正しく閲覧することができなくなります。

7. Screen 出力ファイル閲覧

7-1. 概要

Linux による Screen 単一出力モードによる実行結果を、Windows 環境の Create!Form Design 導入環境で閲覧する機能が「Screen 出力ファイル閲覧」機能です。

7-2. 実行手順

(例) 出力ファイルに「exdir/file.html」を、実行引数に「-ts」オプションを指定して Linux 実行で出力したファイルを Windows の Create!Form Design 導入環境で閲覧します。

- ① Linux 環境の「exdir/file.html」と「exdir/file_outfiles」フォルダーを Windows 環境へ転送します。
- ② Windows 環境で取得した HTML ファイルと outfiles フォルダーを「帳票資源フォルダー / sc_output」内に格納します。
- ③ マネージャーのメニュー [ツール] - [Screen 出力ファイル閲覧] をクリックします。
- ④ 「sc_output」フォルダーがエクスプローラーで開くので、「file.html」を選択します。
- ⑤ [OK] ボタンをクリックします。

上記手順により、Windows 環境で Web サーバーが起動し、デフォルトブラウザでの出力ファイル「file.html」を閲覧することが可能となります。

8. 部分出力

8-1. 概要

部分出力機能は HTML の一部を省略した形で出力する機能です。

Screen ランタイムで出力される HTML ファイルは、デフォルトではヘッダーなどが含まれており、HTML をそのままブラウザで表示できるようになっています。

しかし、アプリケーションの中に Screen の実行結果を埋め込む場合など、ヘッダーの情報が不要になる場合があります。部分出力機能を使用することで、帳票の出力部分のみを HTML へ出力することができます。

<< 注意 >>

部分出力機能は単一出力モードやツールバー表示モードと併用することができません。

8-2. 部分出力の種類

部分出力機能は body 以下出力と form 以下出力の 2 種類の出力が使用できます。

それぞれの出力は以下となります。

body 以下出力

body 以下出力では、通常の Screen の実行結果から以下の情報を省略して HTML 出力を行います。

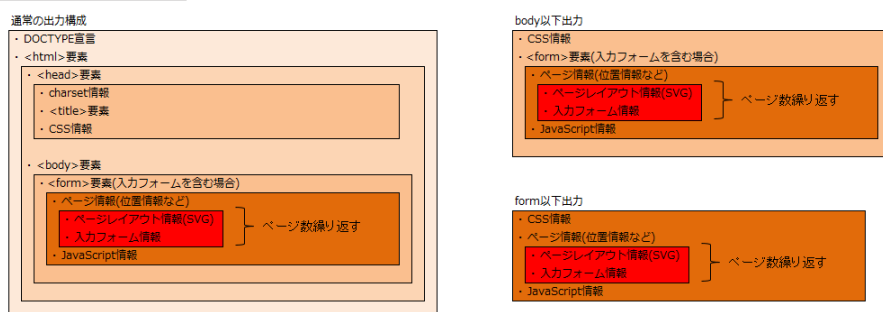
- ・ DOCTYPE 宣言
- ・ <head> 内のヘッダー情報 (HTML タイトルを含む)
- ・ <body> 要素

form 以下出力

form 以下出力では、通常の Screen の実行結果から以下の情報を省略して HTML 出力を行います。

- ・ DOCTYPE 宣言
- ・ <head> 内のヘッダー情報 (HTML タイトルを含む)
- ・ <body> 要素
- ・ (入力フォームオブジェクトが含まれる場合) <form> 要素

図：出力内容の違い



<< 注意 >>

入力フォームオブジェクトが含まれないジョブでは body 以下出力と form 以下出力の結果は同様の出力結果となります。

8-3. 設定方法

部分出力機能はコマンドラインオプションで指定することにより設定できます。

body 以下出力を行う場合は「-0mb」を、form 以下出力を行う場合は「-0mf」をコマンドライン実行時に指定してください。

9. URL 設定

9-1. 概要

Screen ランタイムでは Web 上にある HTTP でアクセスが可能な場所のリソースを使用して帳票を出力できます。

URL 設定では、どの URL のリソースを使用するかを設定を行います。

具体的には、以下の URL の設定が必要となります。

- ・ **フォント URL**
Web フォントのフォントファイル配置場所を指定します。Web フォントが設定されたときはフォント URL の直下にあるフォントファイルを指定してフォントにアクセスします。
外字を出力する場合もフォント URL に EUDC.TTE ファイルを配置する必要があります。
Web フォントについては、マネージャーのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から「3. 機能リファレンス」-「3.6 フォントの指定・多言語出力」-「Web フォント」をご覧ください。
- ・ **イメージ URL**
固定イメージオブジェクトに表示する画像ファイルの配置場所を指定します。
- ・ **JavaScript URL**
ファイル指定の外部 JavaScript を取り込む際の JavaScript ファイルの配置場所を指定します。
- ・ **CSS URL**
ファイル指定の外部 CSS を取り込む際の CSS ファイルの配置場所を指定します。

URL 設定は以下の 3 種類のパスの指定が可能です。

① 絶対パス

URL を「http://」などから始まる絶対パスで指定する方法です。

(例) フォント URL が「http://example.com/fonts/」、Web フォントに「example.ttf」を設定
→「http://example.com/fonts/example.ttf」が参照されます。

② Web サーバーのドキュメントルートからの相対パス

URL をサーバーのドキュメントルートからの相対パスで指定する方法です。

スラッシュ (/) から開始するパスを指定することで、ドキュメントルートからの相対パスとすることができます。

(例)

- ・ イメージ URL が「/image/」、固定イメージのファイルに「sample.jpg」を設定
→「(Web サーバーのドキュメントルート)/image/sample.jpg」が参照されます。

③ 出力 HTML からの相対パス

URL を出力 HTML からの相対パスで指定する方法です。

①でも②でもない方法で指定した場合にこちらの指定方法となります。

(例)

- ・ フォント URL が「fonts/」、Web フォントに「example.ttf」を設定
→ 「(HTML が出力されるディレクトリ /)fonts/example.ttf」が参照されます。

なお、末尾のスラッシュ (/) をつけていない場合、Screen ランタイム側で自動的に補完されます。例えば、「http://example.com/」の指定と「http://example.com」の指定は同様の出力結果となります。

9-2. 設定方法

各種 URL は以下の 3 種類の方法で設定することができます。

- ・ 実行オプションによる設定
- ・ screen.properties ファイルによる設定
- ・ 環境設定による設定

各種設定方法について説明します。

9-2-1. 実行オプションによる設定

実行オプションで各種 URL を設定することにより、実行単位で URL 設定を適用することができます。

コマンドラインオプションでは、フォント URL は「-wf」、イメージ URL は「-wi」、JavaScript URL は「-wj」、CSS URL は「-wc」にて設定できます。

コマンドラインオプションの詳細な設定方法につきましては、マネージャーのメニュー [ヘルプ] - [オンラインマニュアル] から [5. 出力ランタイムの呼び出し] - [5.2 実行オプション] - [4-4. Screen 製品] をご覧ください。

9-2-2. screen.properties ファイルによる設定

作業ディレクトリに screen.properties ファイルを作成することにより、作業ディレクトリ単位に URL 設定を適用することができます。

screen.properties ファイルの詳細につきましては、本マニュアルの [10. screen.properties ファイル] をご覧ください。

9-2-3. 環境設定による設定

環境設定で各種 URL を設定することにより、Create!Form 導入環境全体に URL 設定を適用することができます。

Windows 環境の各種 URL 設定方法

環境設定による各種 URL 設定は、マネージャーの [メニュー] - [環境設定] で表示される [環境設定] ダイアログの [Screen 設定] タブから設定することができます。

図：「環境設定」ダイアログ「Screen 設定」タブ

環境設定

履歴/バックアップ 名前/名前の変更処理 文字コード/外字設定
テーマ/スタイル/フォント/レイアウト 印刷設定 リストの高さ設定 Screen設定

各種URL

Screen製品で参照するファイルの配置場所(URL)を指定してください

フォントファイル配置URL

画像ファイル配置URL

JavaScript配置URL

CSS配置URL

入力フォーム

送信時文字コード： UTF-8

単一出力ホスト設定

ホスト番号： 65500

Linux 環境の各種 URL 設定方法

以下に説明する各種 URL 設定用の環境変数を設定してください。

- ・ フォント URL
CREATE_URL_FONT= 値（値：URL 文字列）
- ・ イメージ URL
CREATE_URL_IMG= 値（値：URL 文字列）
- ・ JavaScript URL
CREATE_URL_JS= 値（値：URL 文字列）
- ・ CSS URL
CREATE_URL_CSS= 値（値：URL 文字列）

9-2-4. 設定の優先順位

各種 URL が上に示した複数の方法で設定された場合、以下の優先順位で設定が有効になります。

（高）実行オプション > screen.properties ファイル（後述）> 環境設定（低）

9-3. 注意事項

9-3-1. マネージャーのテスト実行

マネージャーのテスト実行機能を使用したときのみ、各種 URL は以下の値に設定されます。

連続実行

- ・ フォント URL…Windows の Fonts フォルダー
- ・ イメージ URL…作業ディレクトリ直下の form フォルダー

単一実行

- ・ フォント URL、イメージ URL…帳票資源フォルダ直下の sc_output フォルダー

共通

- ・ JavaScript URL…(ユーザー設定フォルダー)/private/js
- ・ CSS URL…(ユーザー設定フォルダー)/private/css

これらの設定は環境設定よりも優先されますが、実行オプションによる設定、または screen.properties ファイルの設定がある場合はそれらの設定が優先されます。

9-3-2. 固定イメージオブジェクトの取り扱い

固定イメージオブジェクトを使用するためには画像ファイルをイメージ URL 直下に配置します。他のランタイムでは作業ディレクトリ直下の form フォルダーに画像ファイルを配置する必要がありますが、Screen ランタイムの場合は異なりますのでご注意ください。

10. screen.properties ファイル

10-1. 概要

screen.properties ファイルは Screen ランタイム専用の設定を作業ディレクトリ単位で設定するためのファイルです。

作業ディレクトリ内にファイル名「screen.properties」のファイルを作成し、設定を記述することで、Screen ランタイム実行時のパラメーターとして使用することができます。

10-2. 設定値

10-2-1. ファイル形式

screen.properties ファイルの設定は以下の形式で設定します。

[設定項目名]=[設定値]

1 行に 1 つの項目を設定します。複数の設定を記述する場合は複数行に分けて記述します。

10-2-2. 設定項目

screen.properties ファイルでは以下の項目が設定できます。

- ・ url.font 属性
フォント URL を設定することができます。
- ・ url.image 属性
イメージ URL を設定することができます。
- ・ url.javascript 属性
JavaScript URL を設定することができます。
- ・ url.css 属性
CSS URL を設定することができます。

(例) フォント URL に「/fonts/」、イメージ URL に「/images/」、JavaScript URL に「/js/」、CSS URL に「/css/」を設定する場合、以下の screen.properties ファイルを作成します。

```
url.font=/fonts/  
url.image=/images/  
url.javascript=/js/  
url.css=/css/
```

10-3. 注意事項

screen.properties ファイルは UTF-8 (シグネチャなし) で保存する必要があります。また、改行コードは CRLF または LF で作成してください。

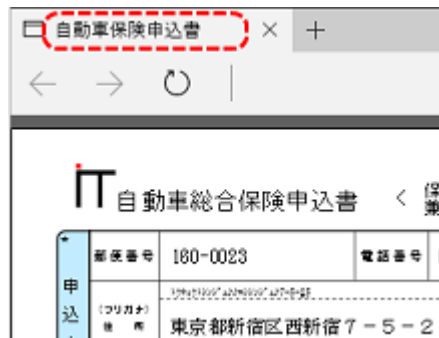
11. その他の設定

11-1. HTML タイトル

Screen ランタイムでは HTML タイトルを設定することができます。

設定された HTML タイトルは HTML のページタイトルとして扱われ、ブラウザのタブに表示されます。

図：HTML タイトル

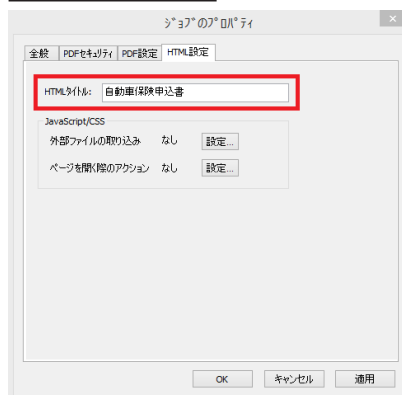


11-1-1. 設定方法

HTML タイトルを設定する手順は以下となります。

1. マネージャーを起動します。
2. プレビューモードでジョブを選択し、右クリックメニューの [HTML 設定] をクリックします。
3. 「HTML タイトル」のテキストボックスに HTML タイトルに表示する文字列を入力します。
4. [OK] ボタンをクリックし、ジョブプロパティダイアログを閉じます。

図：[HTML 設定] 画面



<< 注意 >>

HTML タイトルの初期値にはジョブを作成した時の「帳票名」の値が設定されます。

Create!Form 12

HTML 出力設定 第 2 版

発行日	2024 年 8 月
発行者	インフォテック株式会社